

### c) ホントウアカヒゲ

ホントウアカヒゲの確認状況を表 6.1.5-18 に、確認位置を図 6.1.5-27～図 6.1.5-30 に示した。いずれの地区でも個体の確認が見られたほか、繁殖状況として巣跡が確認された。

G 地区では、春季に□個体、夏季に□個体、秋季に□個体、冬季に□個体が確認された。ホントウアカヒゲの繁殖期は4～6月頃であり、枯損木の洞や河岸の岩棚などに営巣することが知られている。春季調査時に、着陸帯□で営巣が確認されたほか、□では幼鳥(巣立ち雛)が確認された。また、本年度利用したのと考えられる巣跡が計□ヶ所確認されており、繁殖状況は良好であったのと考えられた。

H 地区では、春季に□個体、夏季に□個体、秋季に□個体、冬季に□個体が確認された。春季調査時に、着陸帯□ヶ所の沢沿いで営巣が確認されたほか、着陸帯の□ヶ所で幼鳥が確認された。また、本年度利用したのと考えられる巣跡が計□ヶ所確認されており、繁殖状況は良好であったのと考えられた。

N-1 地区では、春季に□個体、夏季に□個体、秋季に□個体、冬季に□個体が確認された。春季調査時に、着陸帯□で営巣が確認されたほか、□ヶ所では幼鳥(巣立ち雛)が確認された。また、本年度利用したのと考えられる巣跡が計□ヶ所確認されており、繁殖状況は良好であったのと考えられた。

N-4 地区では、春季に□個体、夏季に□個体が確認された。春季調査時に、着陸帯 N-4.1 の□で営巣が確認されたほか、□では幼鳥(巣立ち雛)が確認された。また、本年度利用したのと考えられる巣跡が□ヶ所確認されており、繁殖状況は良好であったのと考えられた。

表 6.1.5-18 ホントウアカヒゲの確認状況

G地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
巣跡					

H地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
巣跡					

N1地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
巣跡					

N4地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成鳥				
	齢不明				
	幼鳥(雛)				
	計				
繁殖	営巣				
巣跡					

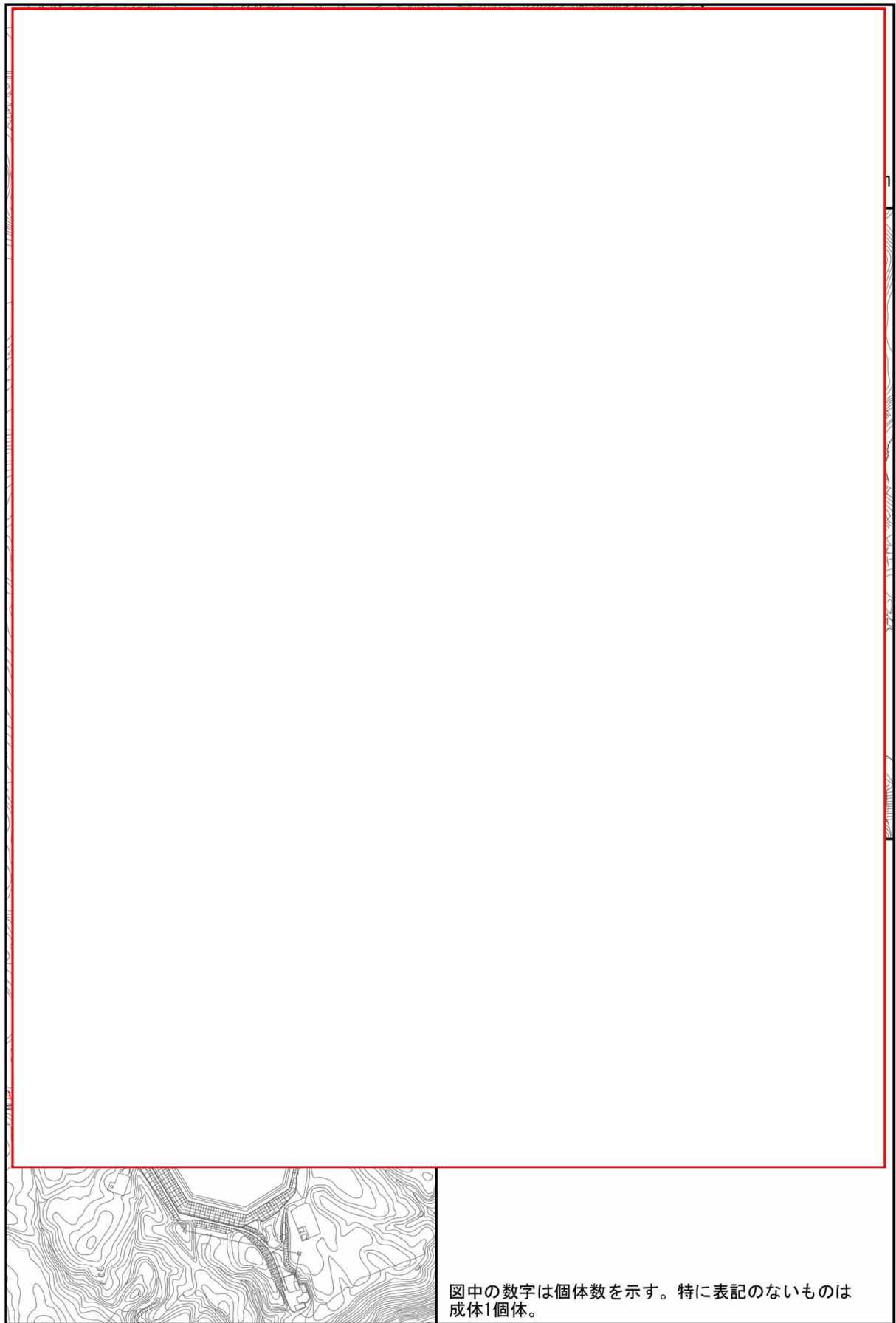
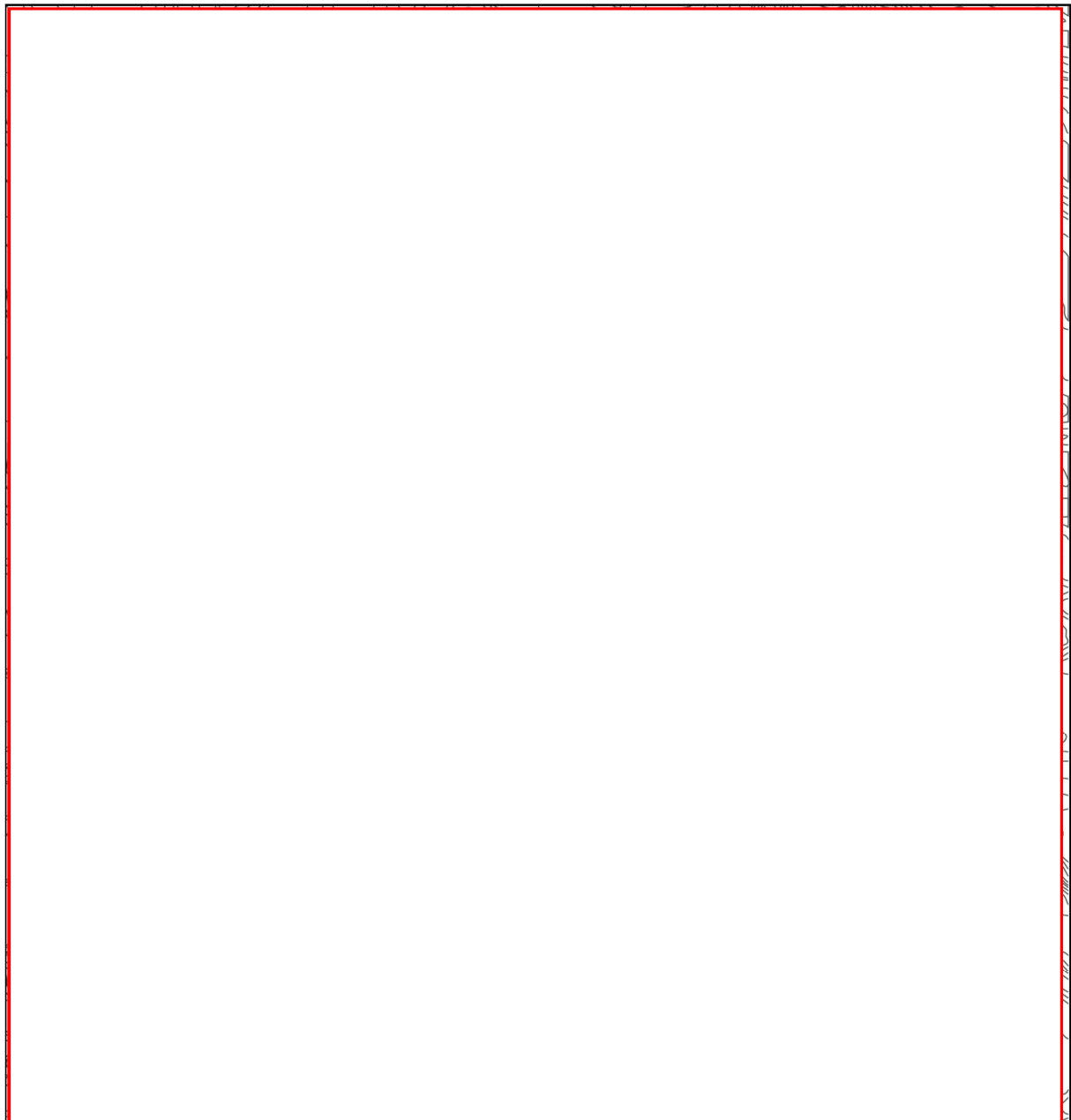







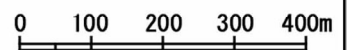
図 6.1.5-27 ホントウアカヒゲの確認位置(G 地区)



凡例

 : 調査範囲     
  : 事業実施区域     
  : 沢

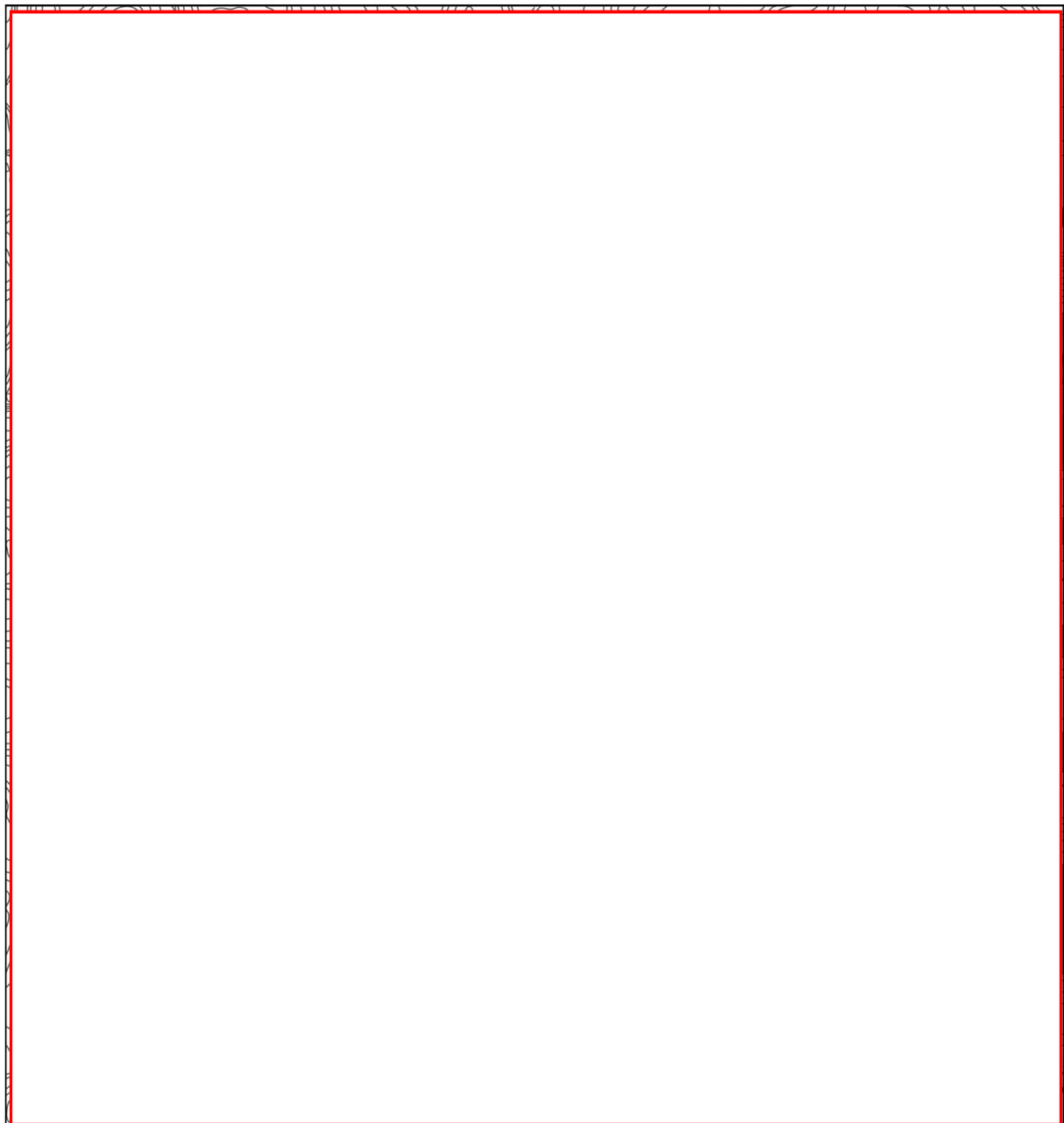
-  : 春季       : 巣跡
-  : 夏季
-  : 秋季
-  : 冬季



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成鳥1個体。

図 6.1.5-28 ホントウアカヒゲの確認位置(H地区)





凡例

 : 事業実施範囲   
  : 調査範囲   
  : 沢

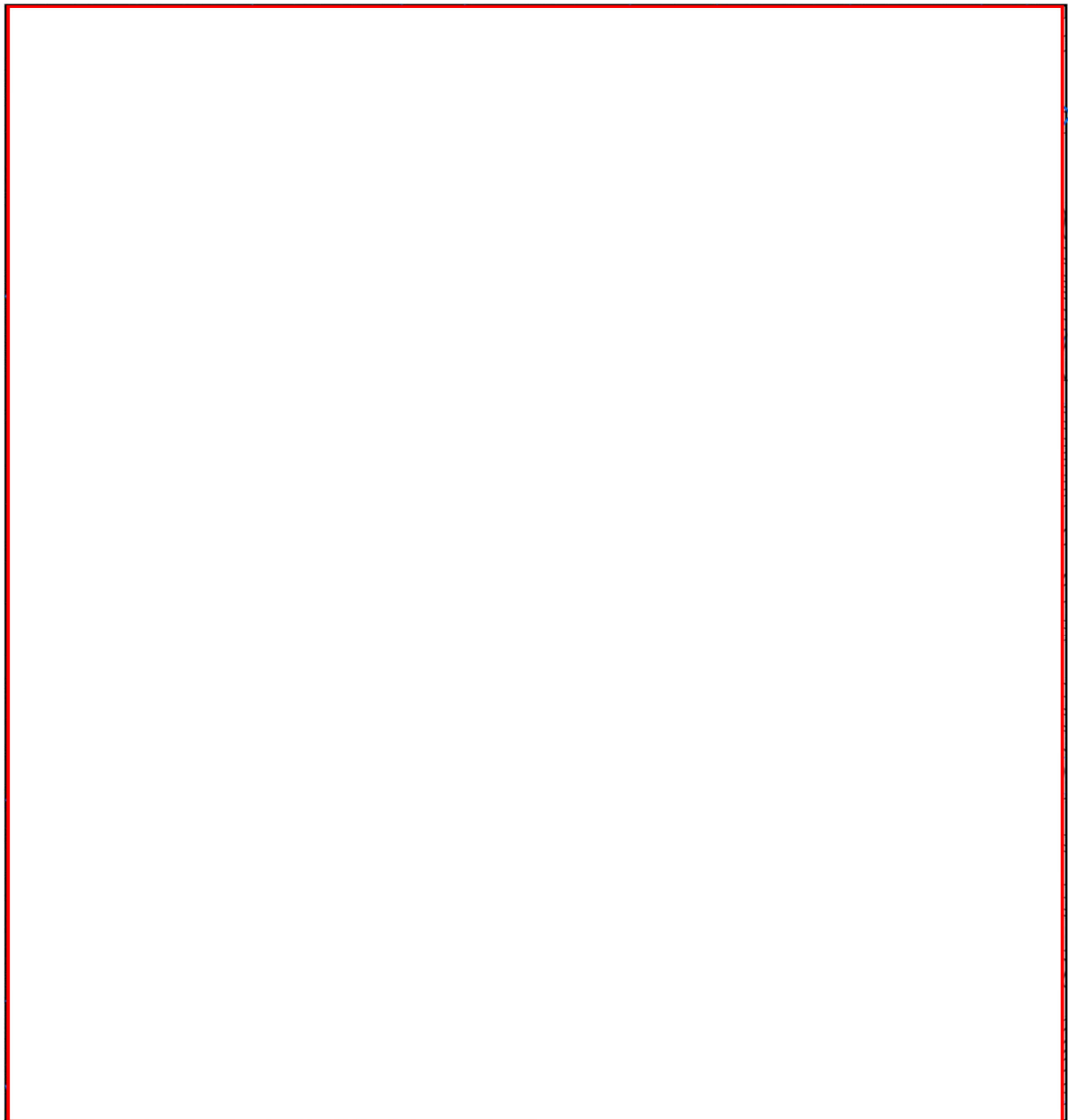
-  : 春季       : 営巣
-  : 夏季       : 巣跡
-  : 秋季
-  : 冬季



0 100 200 300 400m

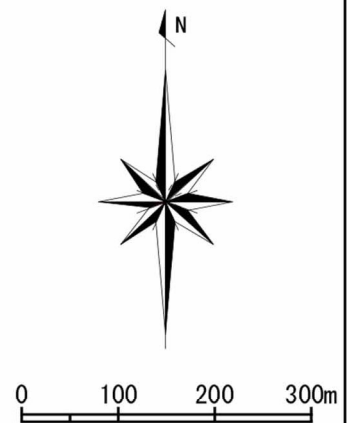
図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-29 ホントウアカヒゲの確認位置(N-1 地区)



凡例

- ◎ : 事業実施区域
- : 調査範囲
- : 沢
- : 春季
- : 巣跡
- : 夏季



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-30 ホントウアカヒゲの確認位置(N-4 地区)

d) ヤンバルホオヒゲコウモリ、リュウキュウテングコウモリ

ヤンバルホオヒゲコウモリは全地区で確認されなかった。

リュウキュウテングコウモリは「コウモリ類のねぐら利用として巣箱の利用状況」に示したとおり、冬季調査においてG地区で [ ] と N-1 地区で [ ] の巣箱を利用する個体が確認された。リュウキュウテングコウモリの確認状況を表 6.1.5-19 に、確認地点を図 6.1.5-31～図 6.1.5-32 に示した。

G 地区では、着陸帯の [ ] に設置した巣箱での [ ] 個体の利用が確認された。N-1 地区では、着陸帯 [ ] に設置した巣箱での [ ] 個体の利用が確認された。

表 6.1.5-19 リュウキュウテングコウモリの確認状況

G地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体	[ ]			
	幼体				
	計				

H地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体	[ ]			
	幼体				
	計				

N1地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体	[ ]			
	幼体				
	計				

N4地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体	[ ]			
	幼体				
	計				

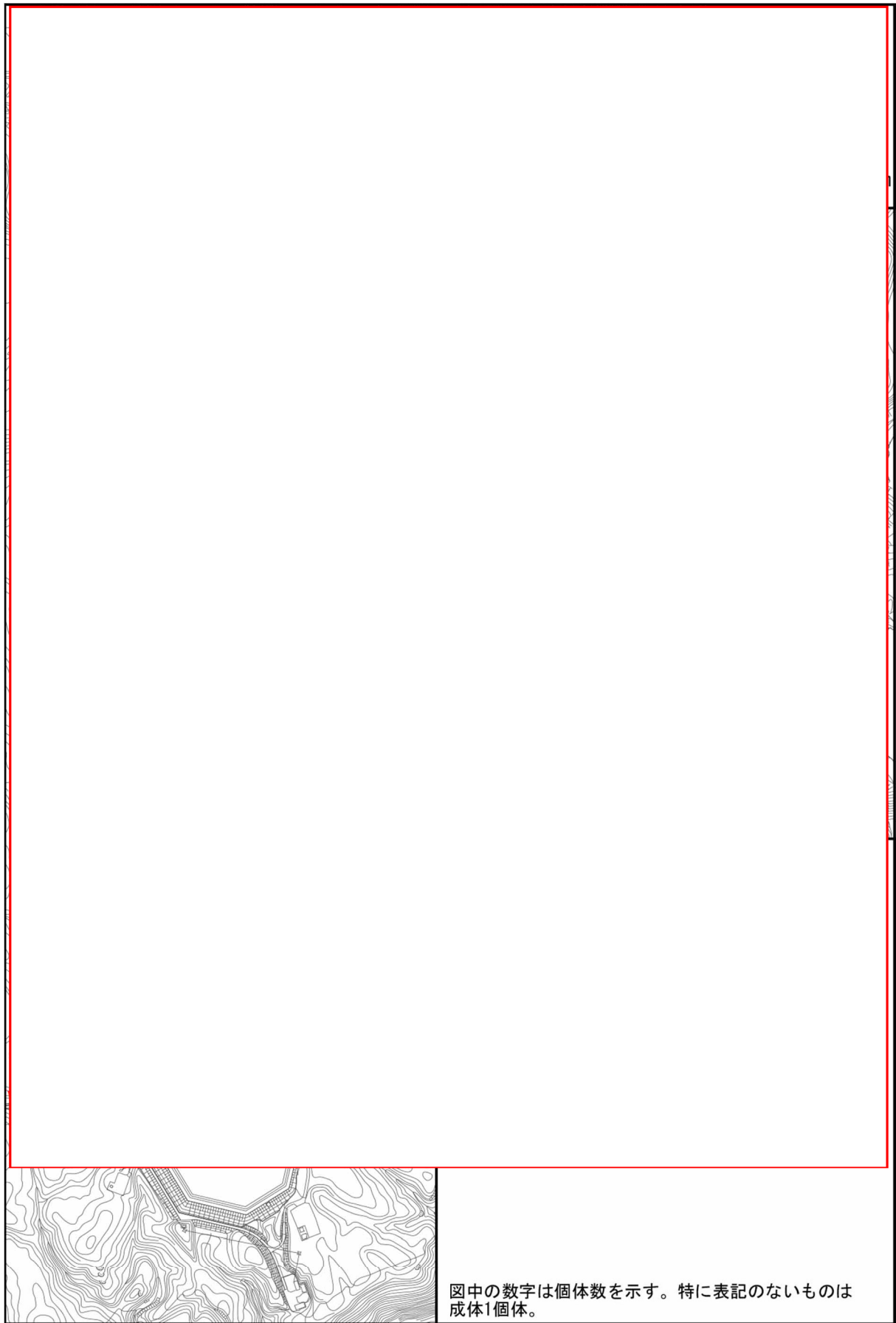
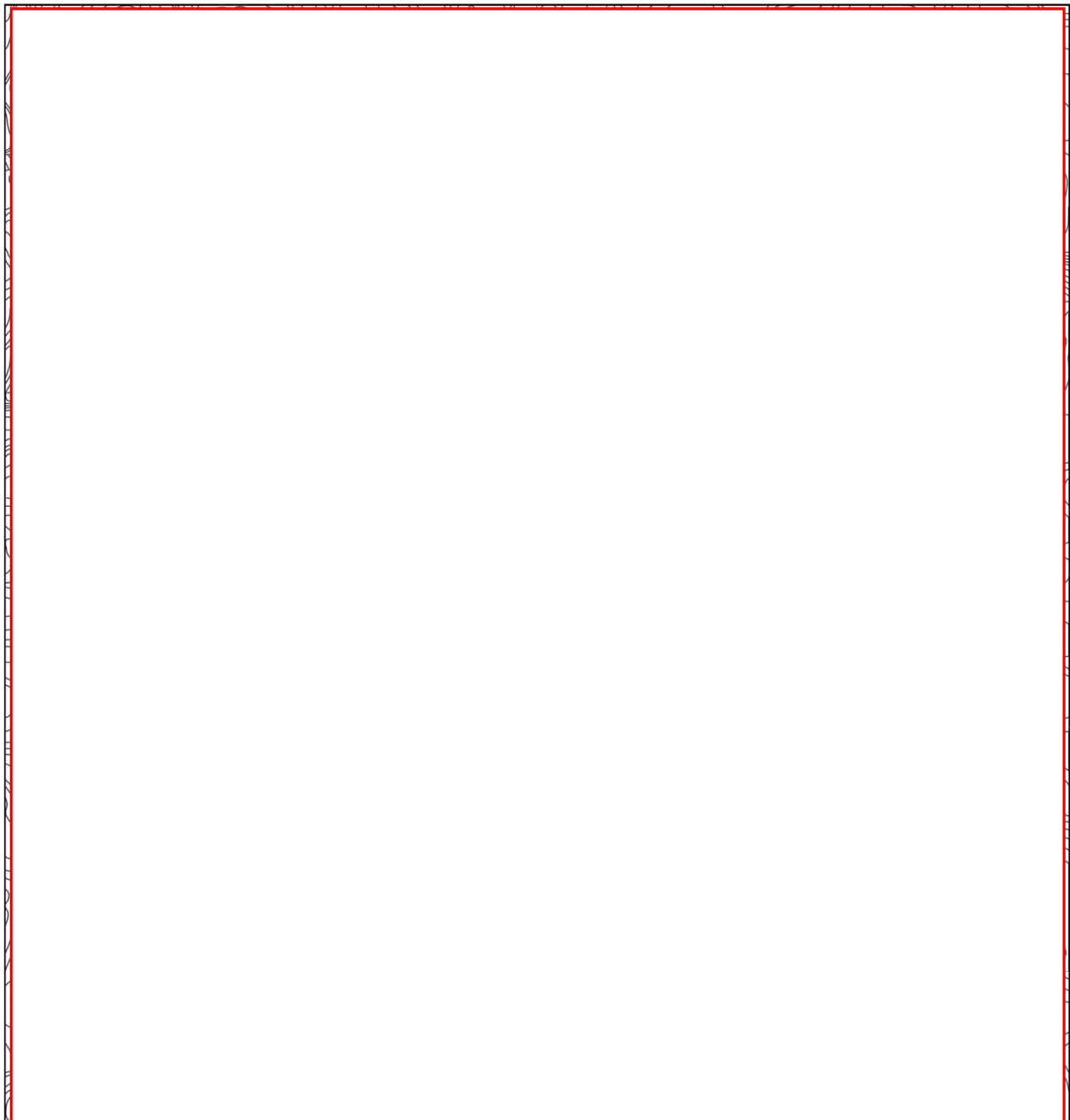


図 6.1.5-31 リュウキュウテングコウモリの確認位置(G地区)



凡例

 : 事業実施範囲   
  : 調査範囲   
  : 沢

-  : 春季
-  : 夏季
-  : 秋季
-  : 冬季



0    100    200    300    400m

図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-32 リュウキュウテングコウモリの確認位置(N-1 地区)

#### e) オキナワトゲネズミ

オキナワトゲネズミは全地区で確認されなかった。

#### f) リュウキュウイノシシ

リュウキュウイノシシの確認状況を表 6.1.5-20、確認位置を図 6.1.5-33～図 6.1.5-36 に示した。

G 地区では、春季に□個体、秋季に□個体が確認された。春季には幼獣□個体が確認され、周辺で繁殖したものと考えられた。このほか沢沿いや尾根道等で掘り返しやヌタ場、足跡などのフィールドサインが多数確認されており、G 地区の調査範囲の全域で生息が確認された。

H 地区では、春季に□個体、夏季に□個体、秋季に□個体、冬季に□個体が確認された。このうち、秋季に□個体、冬季に□個体の幼獣が確認され、周辺で繁殖しているものと考えられた。このほか沢沿いや尾根道等で掘り返しやヌタ場、足跡などのフィールドサインが多数確認されており、H 地区の調査範囲の全域で生息が確認された。

N-1 地区では、春季に□個体、冬季に□個体が確認された。幼獣の確認はなかった。このほか沢沿いや尾根道等で掘り返しや足跡などのフィールドサインが確認されており、確認地点から N-1 地区の調査範囲全域で生息しているものと考えられた。

リュウキュウイノシシは、夏季に□個体が確認された。幼獣の確認はなかった。このほか沢沿いや尾根道等で掘り返しが多数確認されており、N-4 地区の調査範囲の全域で生息しているものと考えられた。

注)ヌタ場とは体表に付いているダニなどの寄生虫や汚れを落とすために泥を浴びる場所、掘り返しとは草の根やミミズ等を採餌するために林床を掘り返した跡である。

表 6.1.5-20 リュウキュウイノシシの確認状況

G地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の 確認	成獣				
	齢不明				
	幼獣				
	計				
又夕場					
掘り返し					
足跡					

H地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の 確認	成獣				
	齢不明				
	幼獣				
	計				
又夕場					
掘り返し					
足跡					

N1地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の 確認	成獣				
	齢不明				
	幼獣				
	計				
又夕場					
掘り返し					
足跡					

N4地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の 確認	成獣				
	齢不明				
	幼獣				
	計				
掘り返し					
足跡					

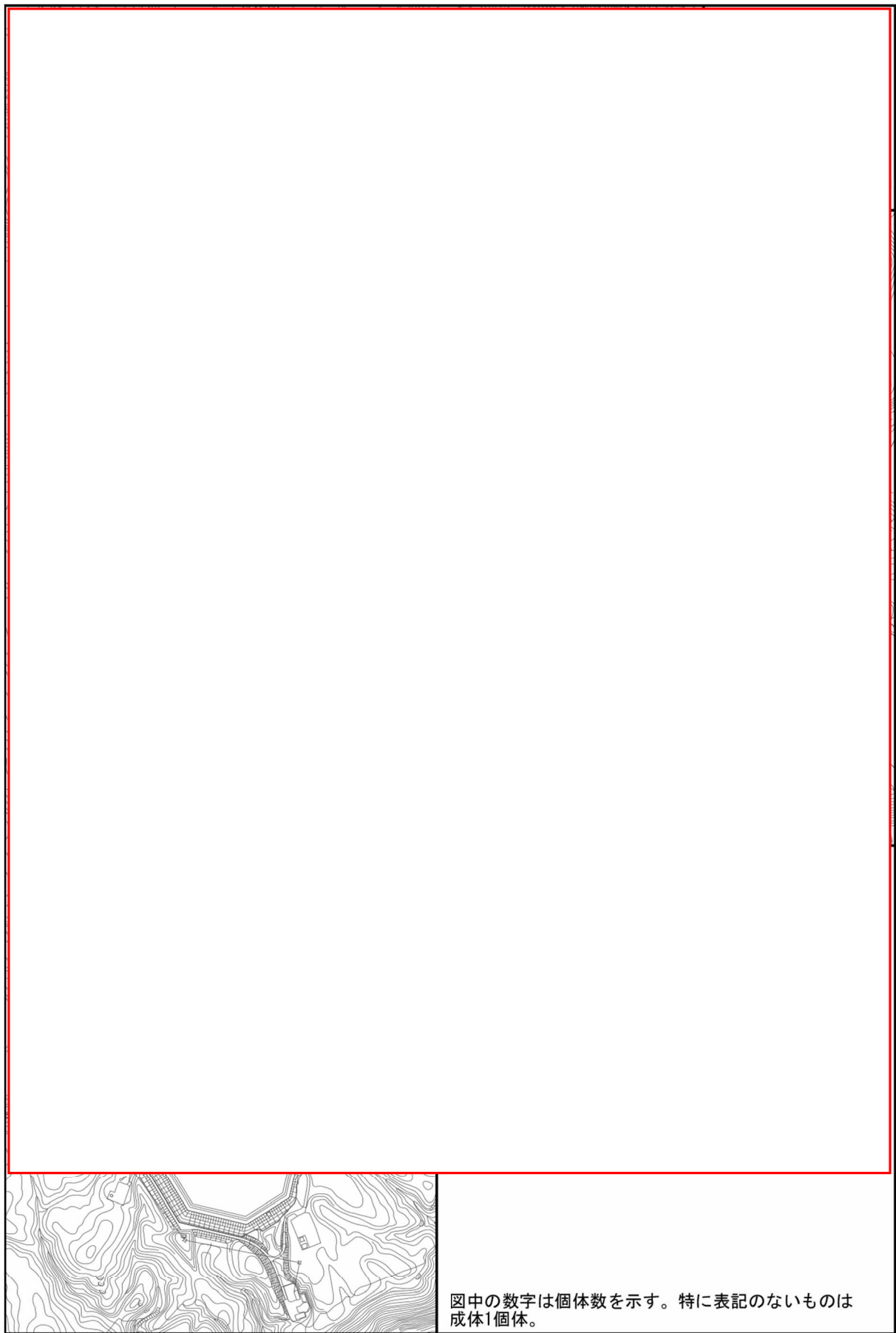
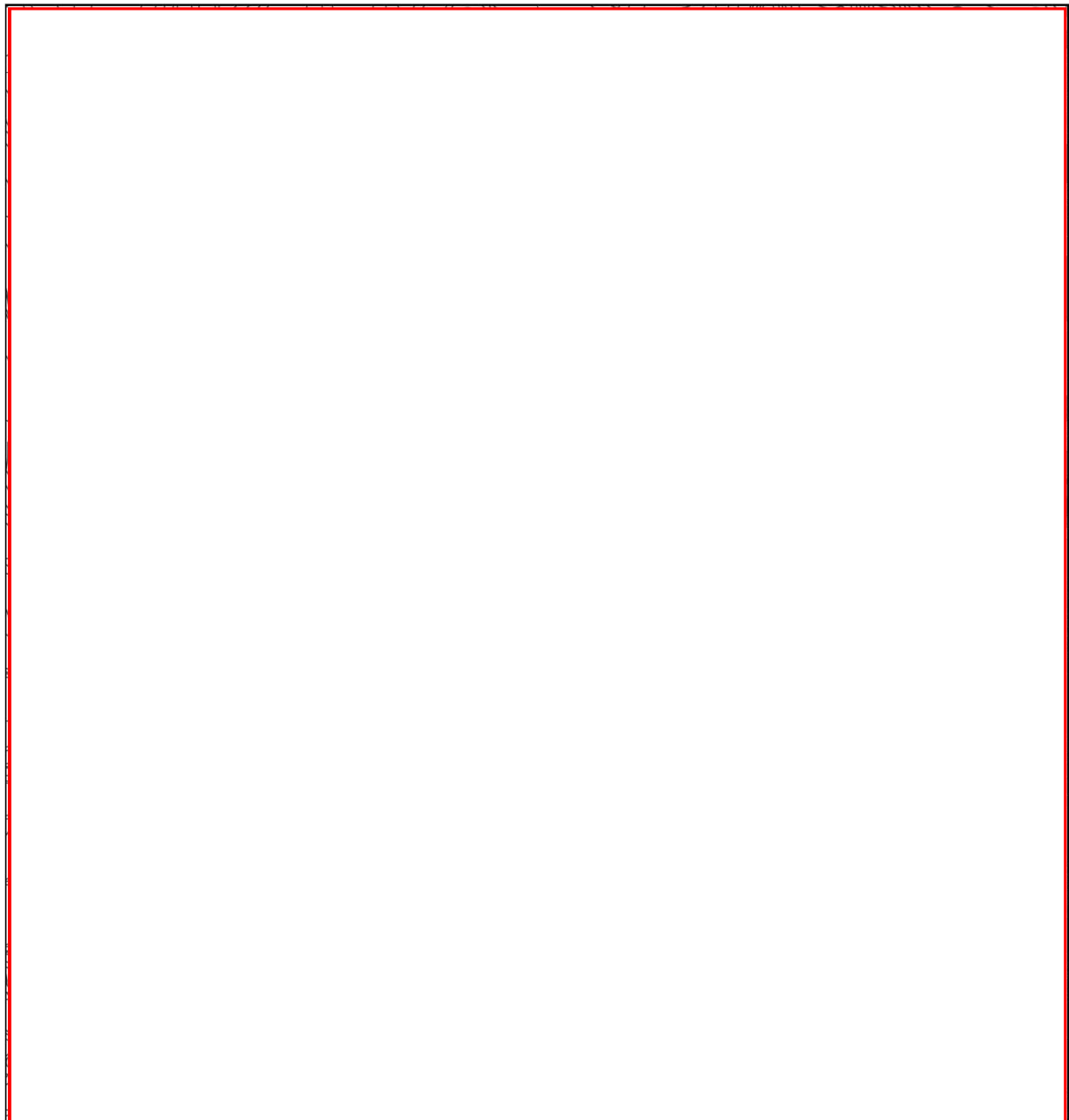









図 6.1.5-33 リュウキュウイノシシの確認位置 (G 地区)

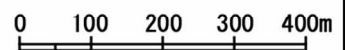




凡例

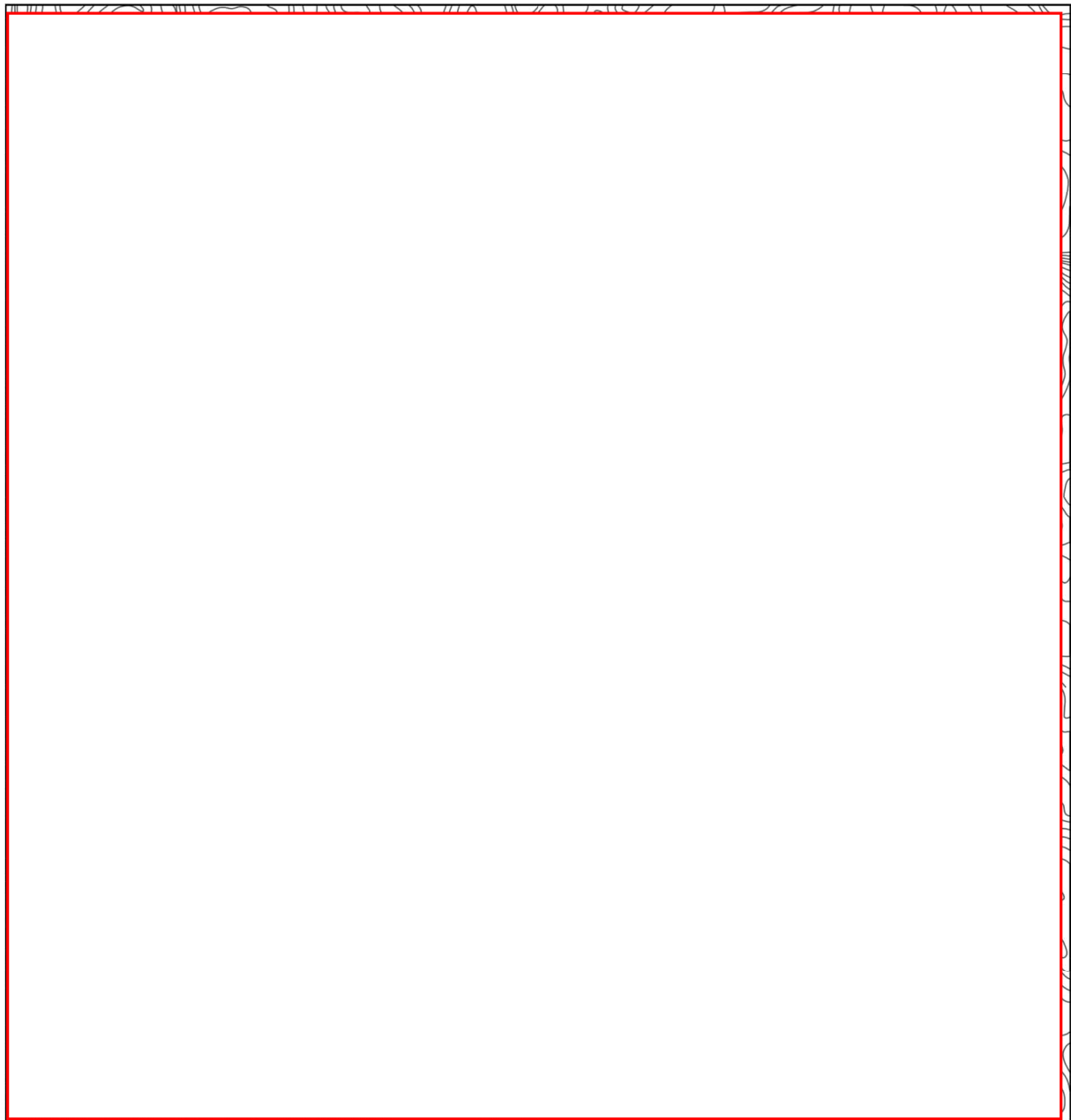
 : 調査範囲     
  : 事業実施区域     
  : 沢

- |  |  |
|--|--|
|  : 春季 |  : 又夕場  |
|  : 夏季 |  : 足跡   |
|  : 秋季 |  : 掘り返し |
|  : 冬季 |  |










図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成獣1個体。

図 6.1.5-34 リュウキュウイノシシの確認位置 (H 地区)



凡例

 : 事業実施範囲   
  : 調査範囲   
  : 沢

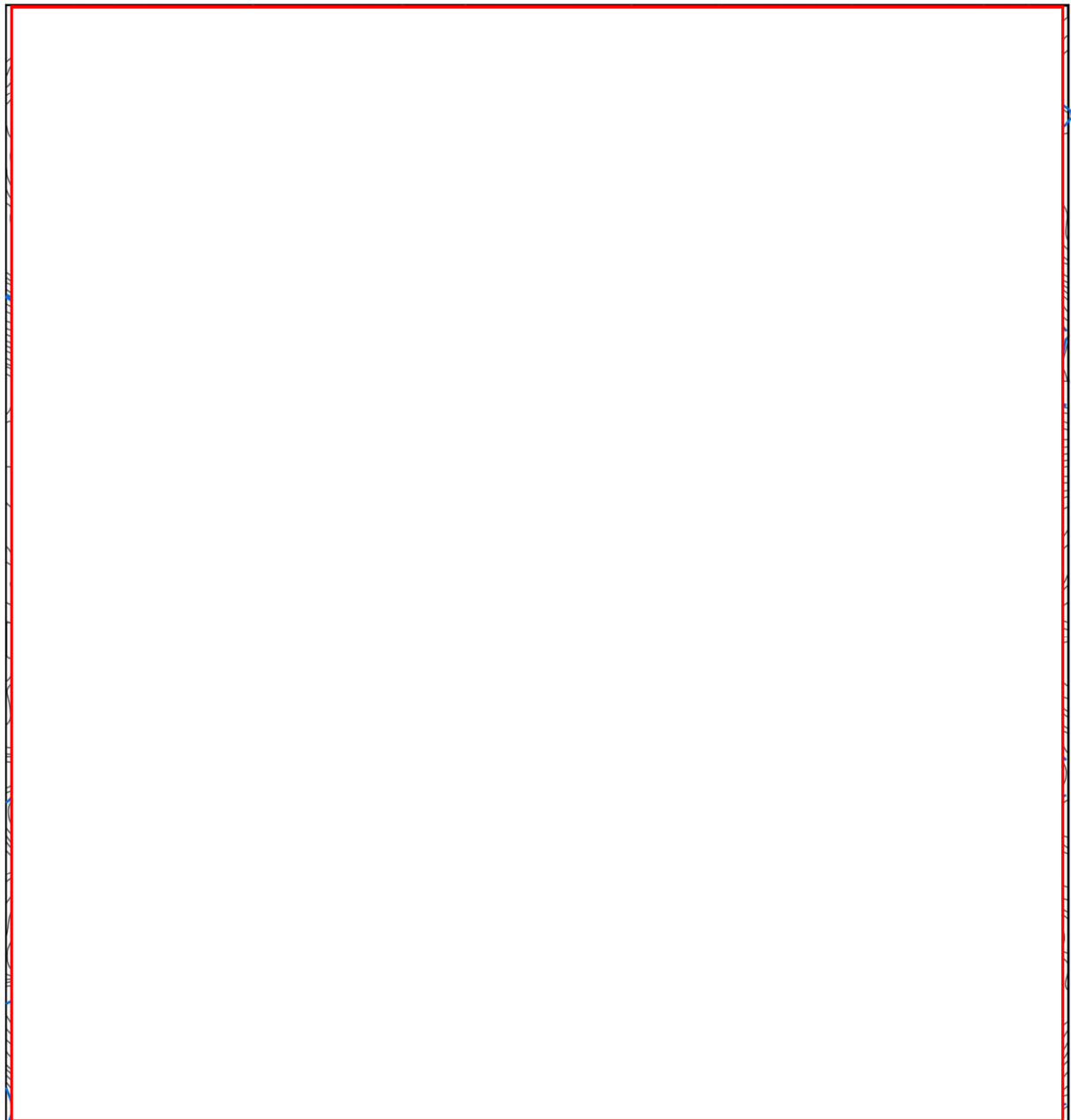
- |  |  |
|--|--|
|  : 春季 |  : 又夕場  |
|  : 夏季 |  : 足跡   |
|  : 秋季 |  : 掘り返し |
|  : 冬季 |  |



0 100 200 300 400m

図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-35 リュウキュウイノシシの確認位置 (N-1 地区)



凡例

- ◎ : 事業実施区域    (---) : 調査範囲    — : 沢
- (green) : 春季       ● (black) : 掘り返し
- (blue) : 夏季



0      100      200      300m

図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-36 リュウキュウイノシシの確認位置(N-4 地区)

g) リュウキュウヤマガメ

リュウキュウヤマガメの確認状況を表 6.1.5-21、確認位置を図 6.1.5-37～図 6.1.5-40 に示した。

G 地区では、リュウキュウヤマガメは調査範囲に広く確認されており、沢筋を中心に春季調査で□個体、夏季調査で□個体、秋季で□個体、冬季で□個体が確認された。リュウキュウヤマガメの産卵時期は、4月から始まり数ヶ月続き、7月頃から孵化した個体が確認されることが知られている。平成 30 年度では夏季調査において幼体□個体が確認され、繁殖状況は良好と考えられた。

H地区では、沢筋を中心に調査範囲に広く確認されており、春季調査で□個体、夏季調査で□個体、秋季で□個体、冬季で□個体が確認された。このうち、春季調査において着陸帯南側の沢沿いで幼体□個体が確認され、周辺で繁殖しているものと考えられた。

N-1 地区では、沢筋を中心に春季調査で□個体、夏季調査で□個体、秋季調査で□個体、冬季調査で□個体が確認された。幼体の確認はなかった。確認地点は着陸帯周辺の広範囲に及んでおり、調査地区全体に生息しているものと考えられた。

N-4 地区では、沢筋を中心に春季調査で□個体、夏季調査で□個体が確認された。幼体の確認はなかった。確認地点は着陸帯周辺の広範囲に及んでおり、調査地区全体に生息しているものと考えられた。

表 6.1.5-21 リュウキュウヤマガメの確認状況

G地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体				
	幼体				
	計				

H地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体				
	幼体				
	計				

N1地区

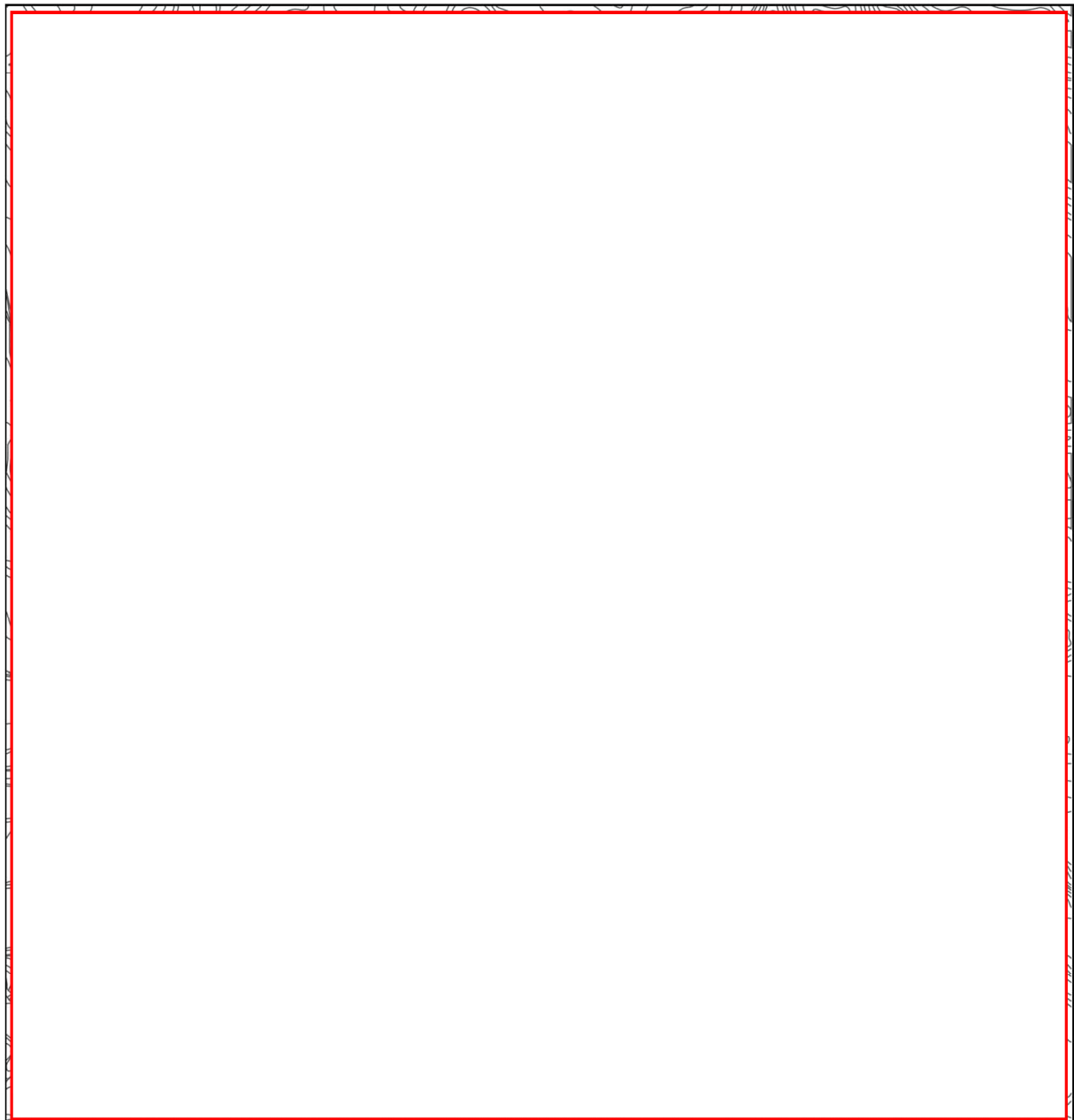
区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体				
	幼体				
	計				

N4地区

区分/季節		春季	夏季	秋季	冬季
個体の確認	成体				
	幼体				
	計				



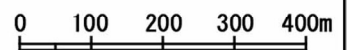
図 6.1.5-37 リュウキュウヤマガメの確認位置 (G 地区)



凡例

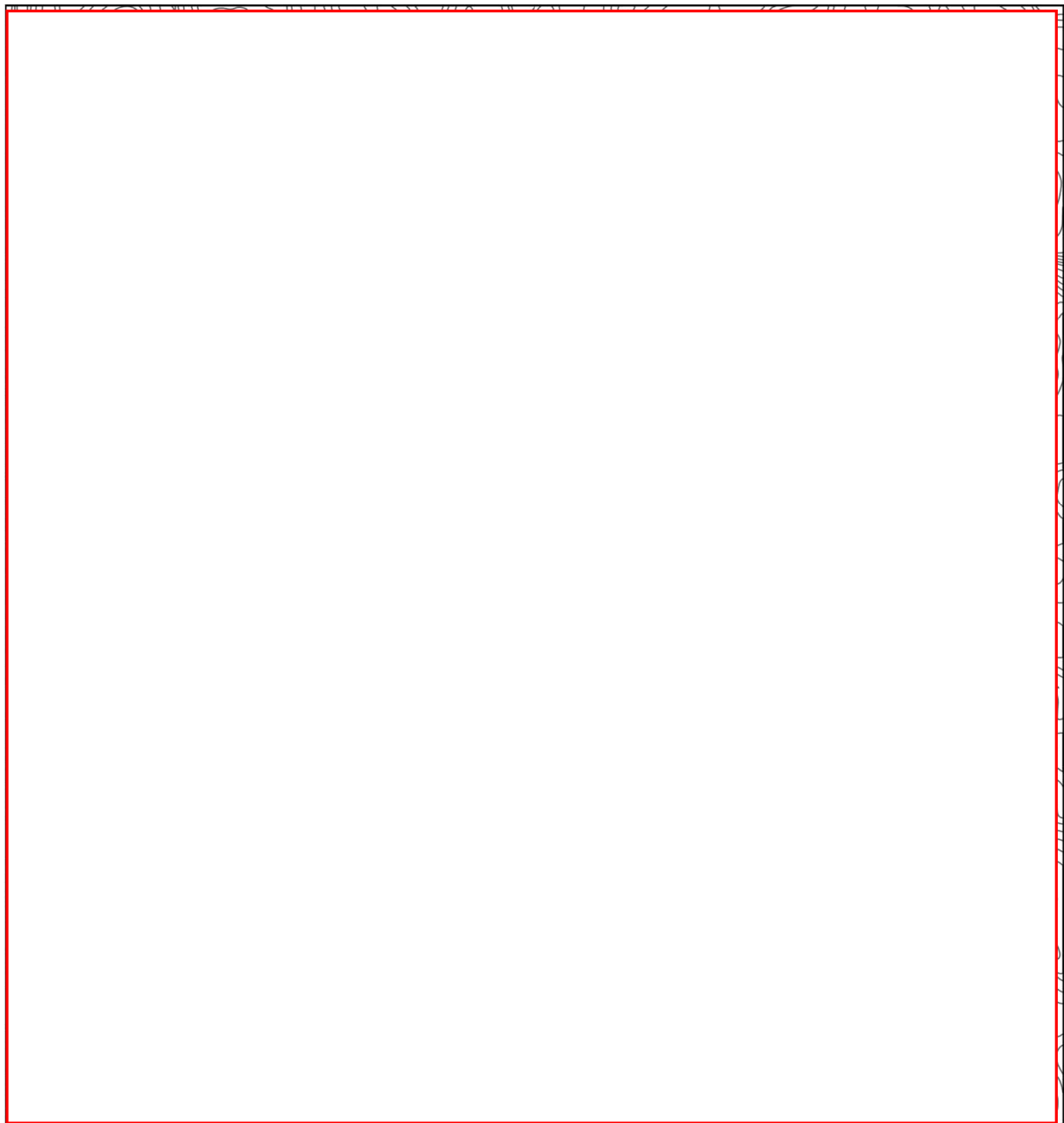
 : 調査範囲     
  : 事業実施区域     
  : 沢

-  : 春季
-  : 夏季
-  : 秋季
-  : 冬季



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-38 リュウキュウヤマガメの確認位置 (H 地区)



凡例

 : 事業実施範囲   
  : 調査範囲   
  : 沢

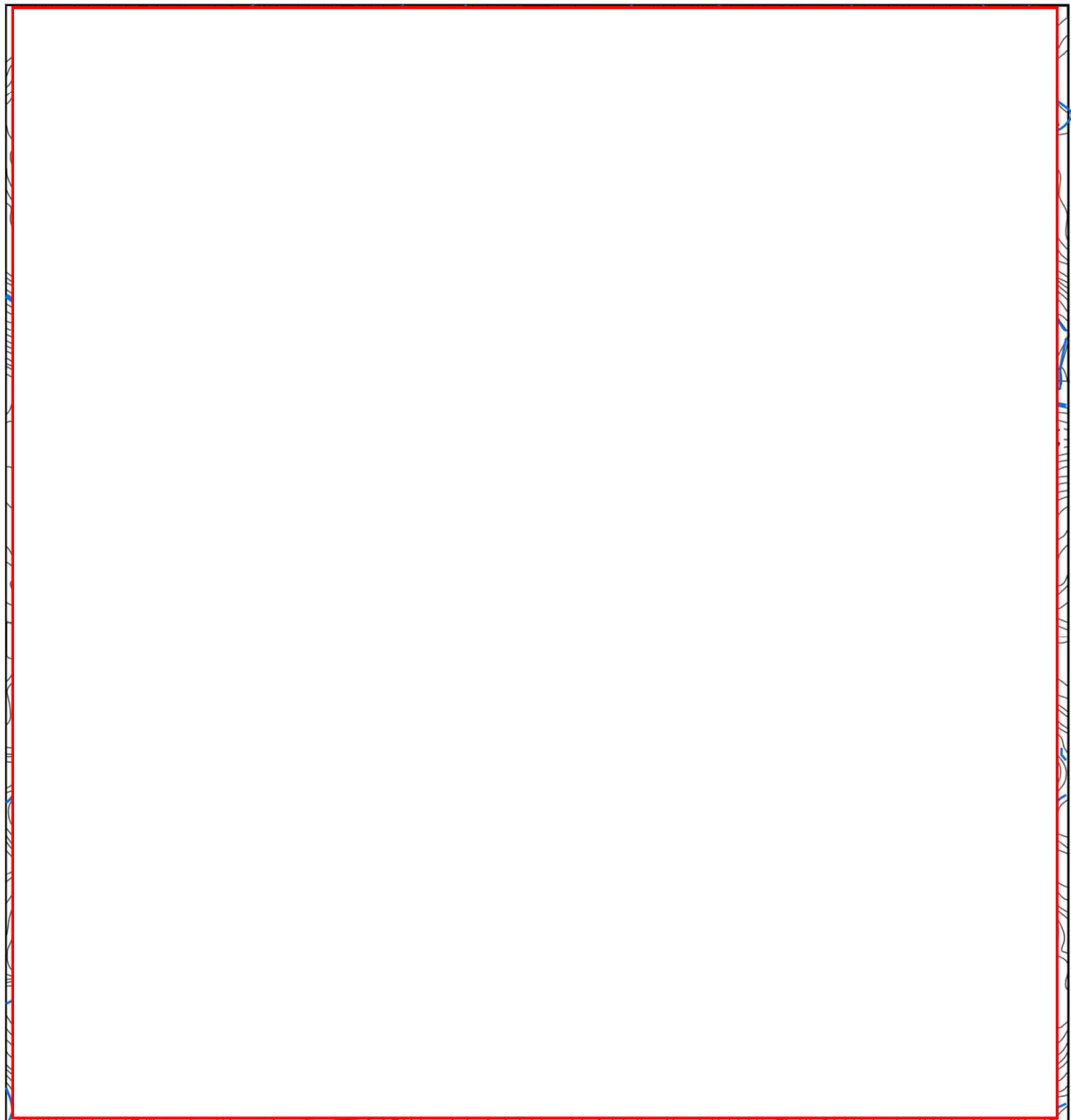
-  : 春季
-  : 夏季
-  : 秋季
-  : 冬季








0 100 200 300 400m

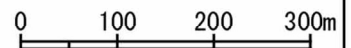
図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-39 リュウキュウヤマガメの確認位置 (N-1 地区)



凡例

- 
: 事業実施区域
 : 調査範囲
 : 沢
-  : 春季
-  : 夏季



図中の数字は個体数を示す。特に表記のないものは成体1個体。

図 6.1.5-40 リュウキュウヤマガメの確認位置 (N-4 地区)